様式 C-19

# 科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年 6 月 1 日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）
研究期間：2008～2009
課題番号：20830101
研究課題名（和文）　就業が高齢期の健康状態に与える長期的・短期的影響
研究課題名（英文）　The Long-term and Short-term Impacts of Work on Health Outcomes of Older Japanese Men

研究代表者
梶谷　真也（KAJITANI SHINYA）
明星大学・経済学部・講師
研究者番号：60510807

研究成果の概要（和文）：
本研究では，男性高齢者の就業行動が健康状態に与える影響について，就業と健康状態との内生性を考慮しながら計量的に分析した．高齢者パネル調査の個票データを用いて分析した結果，1）長年従事した職種の違いによって現在の健康度に違いが見られること（長期的影響），2）日本の男性高齢者は年を取るにつれて相対的に労働時間を減らす傾向にあるものの，高齢期の就業が彼らの健康度を高めること（短期的影響）をそれぞれ確認した．

研究成果の概要（英文）：
We examine the impacts of the working hours of elderly Japanese men on their health outcome, taking into account an endogeneity between work and health. Utilizing panel data on the Japanese elderly, we found that 1) present health status of older Japanese men depend on their past job characteristics (the long-term effect), and 2) while Japanese elderly males prefer to work for relatively fewer hours as they become older, working in old age increases their health level (the short-term effect).

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| 2008 年度 | 1,180,000 | 354,000 | 1,534,000 |
| 2009 年度 | 860,000 | 258,000 | 1,118,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総　計 | 2,040,000 | 612,000 | 2,652,000 |

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：経済学・経済政策
キーワード：経済政策，健康，社会保障，労働市場，実証分析

様式 C-19

# 科学研究費補助金研究成果報告書

## １．研究開始当初の背景

高齢者の非労働力化に大きく影響する要因として，健康状態の悪化が考えられる．そして，高齢期の健康状態は就労期の健康形成と強く関係する．梶谷・小原（2006）は，日本のマクロデータを用いて，若い頃の健康形成が老齢期の健康状態と強くリンクすることを示す．

他方、高齢期の働き方が高齢者の健康状態を維持あるいは向上させる可能性もある．日本では「働かずとも生活できるが，健康維持のために働きたい」という高齢層が多く存在している．将来、不足する労働力の提供を高齢者に求めるならば，高齢期の健康状態をどのように維持して高齢者の就業可能性を高めるかについて政策的な議論が必要となる．

高齢期の健康状態に注目することは，高齢期の厚生格差という点でも興味深い．高齢期の家計について，所得格差や資産格差などの目に見える経済格差の存在が指摘される．しかし，個人の厚生格差という点では，高齢者の就業可能性に格差を生じさせるなど，健康格差が高齢家計における厚生格差を拡大させる働きを持つと考えられる．

参考文献

梶谷真也，小原美紀，有業者の余暇時間と健康投資，日本労働研究雑誌，no.552，44-59，2006.

## ２．研究の目的

本研究の目的は，就業状態が高齢期の健康に与える影響を，1）過去の就業状態の違いが現在の健康に与える長期的な影響と，2）現在の就業状態の違いが現在の健康に与える短期的な影響とに分けて，それぞれの影響を計量的に明らかにすることである．

## ３．研究の方法

就業が高齢期の健康度を高めるか否かという点を明らかにするために，高齢者の健康状態と就業状態との同時性を考慮した操作変数法を用いた分析を行った．

高齢者の現在の就業状態だけでなく過去の仕事内容，そして，高齢者の健康状態に注目した分析を行うため，これらの情報が豊富に含まれる『全国高齢者パネル調査』の個票パネルデータ（1990 年と 1993 年）を用いた．『全国高齢者パネル調査』は東京都老人総合研究所とミシガン大学とが共同で実施した調査であり，観察することができない高齢者個人の異質性をコントロールできるなど，パネルデータの特性を生かした計量分析が可能となった．

研究方法のイメージを図にまとめると，以下の図１と図２のようになる．図１では，1）過去（壮年期）の就業が現在（高齢期）の健康に与える長期的な影響と，2）現在（高齢期）の就業状態が現在（高齢期）の健康に与える短期的な影響とに分けて分析することのイメージを示している．図２では，長期的な影響に関して，現在の健康状態を健康の帰結として捉えた場合，それが過去の就業状況の違いによって異なっているのではないかということのイメージを表している．

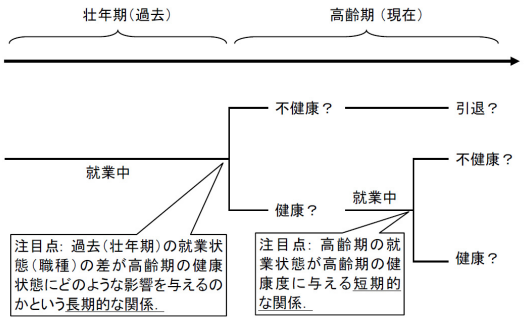



図１

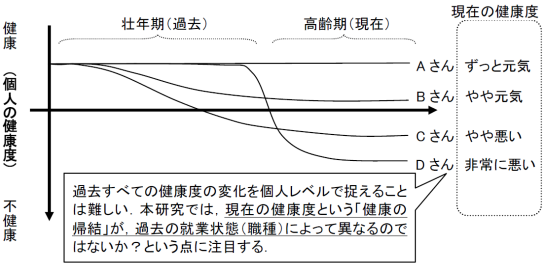



図２

## ４．研究成果

最初に，『全国高齢者パネル調査』を用いて現在の就業状態と健康状態（主観的評価によるもの）との相関関係を確認した．

表１に示すように，健康状態が「よい」「やよい」と回答する割合は働いている高齢者のほうが相対的に高いのに対して，健康状態

が「やや悪い」「悪い」と回答する割合は働いていない高齢者のほうが相対的に高い.

表 1　就業状態と健康状態

| 健康状態 | 非就業 | 就業 |
|---|---|---|
| よい | 24.2% | 38.4% |
| ややよい | 24.8% | 25.7% |
| ふつう | 35.4% | 30.0% |
| やや悪い | 13.2% | 5.5% |
| 悪い | 2.4% | 0.4% |
| 合計 | 100.0% | 100.0% |

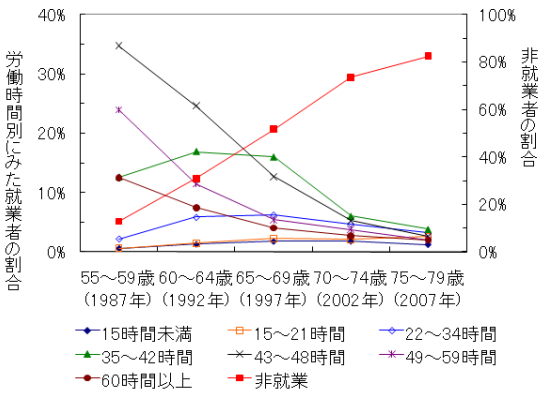
出所：1990，1993 年『全国高齢者パネル調査』より作成.
サンプル数：1,223

ただし，表 1 で示す関係は，働くことで健康状態がよくなるという関係でなく，健康状態がよいから働くという逆の関係を表しているのかもしれない．そこで，計量分析では，この逆の因果関係を取り除くために操作変数法を用いて推定を行った.

その結果，1）長年従事した職種の違いによって現在の健康度に違いが見られることを確認した．具体的には，これまで最も長く従事した仕事が専門職であったと回答した高齢者と比較して，これまで最も長く従事した仕事が現業職（販売，サービス，保安，農林漁業従事者，運輸通信，生産・労務従事者）であったと回答した高齢者のほうが現在の健康度は低いということが統計的有意に確認された．このことは，過去の職種の違いが現在の健康状態の差を捉える重要な要素であることを意味している.

そして，過去の職種の違いが健康に与える長期的な影響を考慮しても，2）高齢期の就業が彼らの健康度を高めるということを統計的有意に確認した．ただし，日本の男性高齢者は年齢を重ねるにつれて相対的に労働時間を減らす傾向にあることも確認される（図 3 を参照）．これらの結果より，労働時間を相対的に短くしつつも，働くことで高齢者は健康度を維持できるということが示唆される.

本研究で得られた結果に従えば，高齢者就業の促進は，少子高齢化に伴う労働力不足の補填だけでなく，高齢期の健康管理という視点からも重要な役割を果たすことが期待される．一方で，過去の職種の違いによって高齢期の健康度に差が生じているという本研究の結果は，高齢期の健康格差を議論する上で過去（若年・壮年期）の就業行動のあり方に注目する必要があるということを示唆している.




出所：1987，1992，1997，2002，2007 年『就業構造基本調査』（総務省）より作成.

図 3　1987 年に 55～59 歳だった男性コーホートのその後の就業状況

## 5．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

① Shinya Kajitani, “Working in Old Age and Health Outcomes in Japan,” 査読無し, Graduate School of Economics and School of Economics Discussion Paper Series, no.16, 2010, Meisei University.

② Shinya Kajitani, “Health and Work Decisions of Older Japanese Men,” 査読無し, Graduate School of Economics and School of Economics Discussion Paper Series, no.12, 2009, Meisei University.

〔学会発表〕（計 3 件）

① Shinya Kajitani, “Working in Old Age and Health Outcomes in Japan,” 産業労働ワークショップ, 2010 年 10 月 20 日, 一橋大学.

② Shinya Kajitani, “Health and Work Decisions of Older Japanese Men,” 大学院経済学研究科研究会, 2009 年 1 月 22 日, 明星大学.

③ Shinya Kajitani, “Health and Work Decisions of Older Japanese Men,” 公共経済学セミナー, 2008 年 12 月 5 日, 慶應義塾大学.

６．研究組織

(1)研究代表者

梶谷　真也（KAJITANI SHINYA）
明星大学・経済学部・講師
研究者番号：60510807